

# 恋ツバメ。

作詞曲／ゴールデン佐藤

見慣れた街角 人の心さえ  
気づかぬ間に 姿変えていく  
満天の夜空 星さえ流れ落ち(※1)  
千年の時が 川を変えようとも(※2)

代われないものがあるなら  
それだけでしあわせ…

春は 水面揺れる宵桜(※3)  
おいらん 恥じらえば 夏を待つ(※4)  
私が 軒に宿る ツバメなら  
いにしえ語り伝わる(※5)  
幻と戯れたい

夕暮れ 赤門 靴音 子供の声(※6)  
電球の明かり 灯るガラス窓

途切れぬ町工場の音(※7)  
それが私の鼓動…

秋は 水道の塔の影(※8)  
伸ばして 沈む夕日 冬を呼ぶ  
私が 旅立てぬ ツバメなら  
いつかの鎚打つ音の(※9)  
響きに身を委ねたい

(間奏)

春は 萬燈の華やかさ(※10)  
夏は 揺れる神輿勇ましく(※11)  
秋は 静寂の五合庵(※12)  
冬は 雪化粧国上山(※13)

mー…

o hー…

ふたたび 春風に 乗りながら  
白藤 薫る空 舞踊る(※14)  
私が 夢まどろむ ツバメなら  
この街で 生きてみたい  
私が恋してる街

あなたが恋してる街…

- ※ 1 : 米納津の隕石落下
- ※ 2 : 大河津分水
- ※ 3 : 土手沿いの桜
- ※ 4 : 分水おいらん道中
- ※ 5 : 長善館の教え、酒天童子伝説
- ※ 6 : 燕東小学校の赤門
- ※ 7 : 夜遅くまで働く燕人氣質
- ※ 8 : 水道の塔
- ※ 9 : 鎚起銅器の鎚打つ音
- ※ 10 : 戸隠神社春祭礼の萬燈
- ※ 11 : 飛燕夏祭りの1000人神輿
- ※ 12 : 良寛が住んでいた五合庵
- ※ 13 : いつもそこには国上山
- ※ 14 : 八王寺、安了寺の白藤